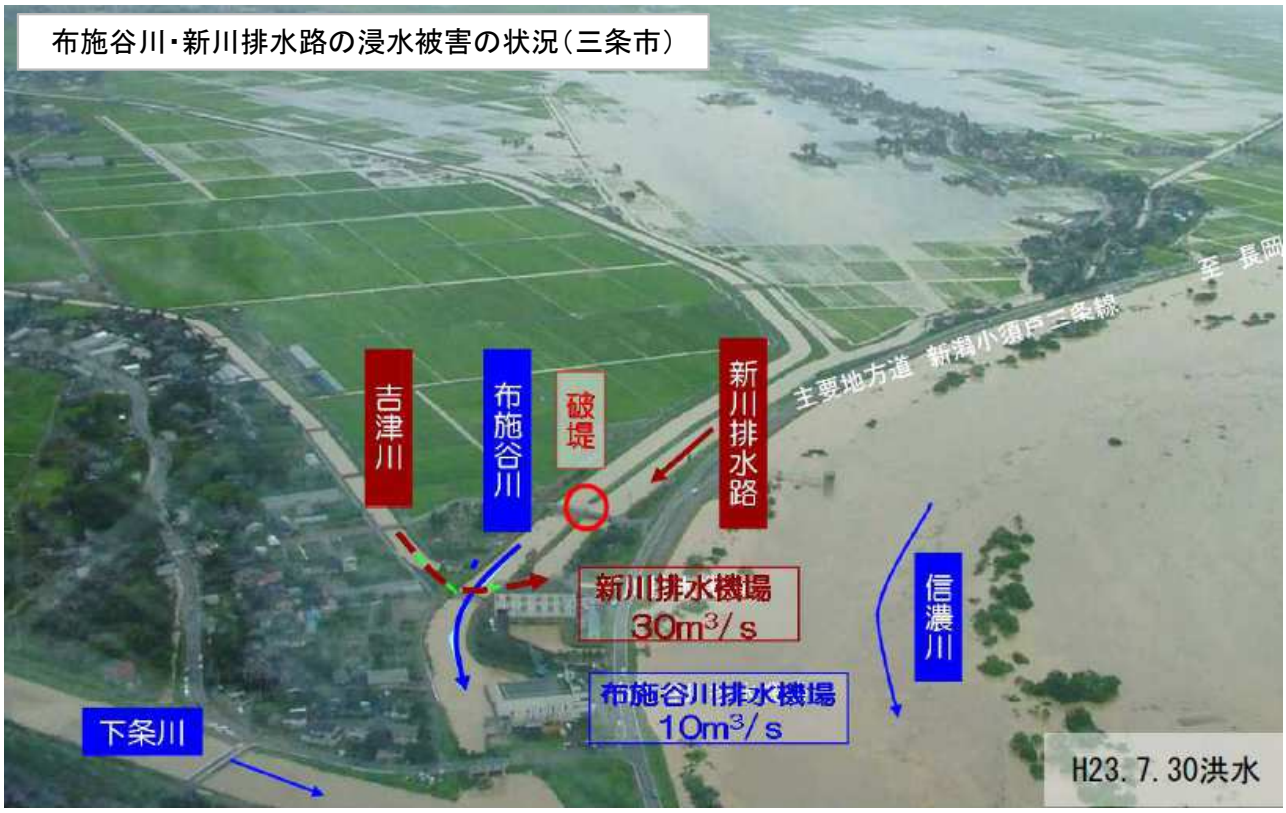
茶郷川治水協議会会報

第９号
平成26年12月25日　発行
発行元　茶郷川治水協議会事務局
（　小千谷市建設課　）



河川整備先進地の視察研修を行いました

茶郷川治水協議会では、今後の茶郷川改修に向けて知識や意識を高めるため、１１月５日に、三条市の布施谷川排水機場、新川排水機場を視察し、研修を行いました。

この地域は地盤が低いため、洪水時には布施谷川や新川排水路の水を排水機場のポンプで信濃川や下条川に強制排水していますが、過去に浸水被害がたびたび発生しており、特に平成23年7月の新潟・福島豪雨では、上の写真のとおり甚大な浸水被害が発生しました。

そこで、関係機関が平成24年に内水氾濫対策検討委員会を組織して対策を検討し、現在その対策を順次実施しています。

主な対策としては、以下の4点になります。①家屋を輪中堤で囲い、川からの水を防ぐ。内部の水は排水ポンプで排水する。②大雨が予想される時は、事前に新川排水路の農業用水を信濃川に排水し、水位を低下させておく。③流下能力が不足している箇所の河川整備を進めるとともに、ポンプの増設を検討する。④2つの排水機場はそれぞれ県と土地改良区が管理しているため、それを一元管理とし、洪水対応の迅速化を図る。

布施谷川排水機場を視察する参加者

このうちまず①②の対策を実施しており、昨年の大雨では効果を発揮し、浸水被害を防ぐことができたそうです。④の管理者の垣根を越えた連携についても、実施に向けて動いているそうです。③については、多額の費用がかかるため、早期実施が難しい状況です。

三条市の先進事例を茶郷川にあてはめてみると、信濃川左岸土地改良区が管理している三古用水との連携については、正に同じような状況であり、三条市の事例を参考に、今後の浸水対策について検討していきたいと考えています。

環境整備部会（茶郷川環境整備協議会）の視察研修を行いました

茶郷川環境整備協議会は、河川環境と景観の維持向上を目的とした活動を通じて、茶郷川の大切さを多くの皆さんに実感していただき、また、住民同士の交流を深める機会づくりにも取り組んでいます。

茶郷川環境整備協議会では、毎年1回、県内外の同様の活動に取り組む団体を訪れ、視察研修を行っています。

今年は、１０月６日と７日に山形県長井市で最上川の環境整備に取り組んでいる「長井市かわまちづくり推進協議会」の皆さんと意見交換などを行いました。

活動状況の説明を受ける参加者

長井市かわまちづくり協議会の活動

長井市かわまちづくり協議会は、まちづくりNPO法人、観光案内ボランティアなど、従来からある各種団体が構成員となり、平成２１年に設立された団体です。それぞれの構成員が得意分野を生かし、川と共存するまちづくりに関わっています。

主な活動としては、最上川沿いに整備された「フットパス」を活用したイベントの開催に取り組んでいます。「フットパス」とは、森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩く【Foot】ことができる小径（こみち）【Path】のことです。

最上川沿いフットパスの状況

地元の人が地元の川を好きになることを目指し、フットパス散策イベントやシンポジウムの開催、歩く人が興味をもてるよう沿川にある草花の紹介看板を設置したり、JR東日本の撮影に協力して川をPRしたり、様々な取り組みを行っており、川に愛着が持てる環境づくりの取り組みは、茶郷川の今後の取り組みにも参考になるものばかりでした。

茶郷川治水協議会の活動について

研修会の中で、当協議会の活動状況について説明したところ、住民が河川の除草や植栽を行っていることに関心を持たれ、多くの質疑がありました。長井市では、河川の環境整備は行政の仕事というのが当たり前になっているとのことで、今後の参考のためにと、意見交換や資料の送付など、今後の交流の継続が話し合われました。

今後の活動に向けて

研修会参加者からは、今後の茶郷川の啓発活動として、例えば中高生を対象とした「茶郷川の源流を辿る学習会」を実施してはどうか、など、様々な意見が出されました。今回の研修会を今後の活動に生かしていきたいと考えています。

大塚昇一市長が協議会会長に就任しました

小千谷市長任期満了に伴い谷井靖夫会長が辞職したため、第1回臨時総会において、大塚昇一市長が協議会会長に選出されました。

大塚会長のもと、今後も引き続き茶郷川の治水対策に取り組んでまいります。

■事務局／〒947-8501　小千谷市城内２-７-５　小千谷市建設課　（電話８３－３５１４）